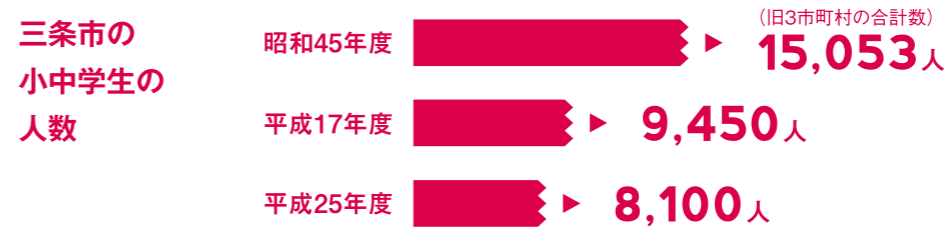


人と人とのかかわる力を育てる。

小中一貫教育推進課
Tel. 0256-45-1112



かつて子どもたちは学校から帰ると近所同士声を掛け合って、学年関係なく遊んでいました。大人も子どもたちを温かく見守り、ときには厳しく注意するなど、子どもたちは知らず知らずのうちに人とのかかわり方を学んできました。

ところが、時代とともに子どもたちを取り巻く環境は大きく変化。急速に少子化や核家族化が進み、人とかかわる機会が少なくなってきました。

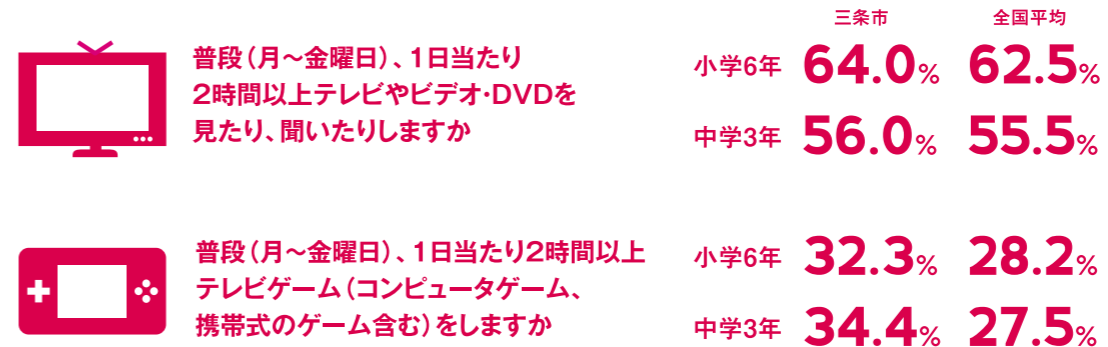
三條市においても、上のデータから分かるように子どもの数が減っています。昭和45年度と比較すると7千人、この8年間で1350人減っています。毎年約170人ずつ減っているということは、保内小学校や栄北小学校あるいは長沢小学校規模の生徒数が毎年減っていることとなります。

かつて遊ぶ近所の子どもが減り、インターネットや携帯電話の普及も子どもたちの生活を変え、ゲームなどに夢中になり、非現実の世界で「喜」憂して現実の世界で汗や涙を流すことが少なくなっています。また、昔に比べて小学生のうちから塾に通う子どもが増え、ますます近所の付き合いがなくなってきました。

もちろん、インターネットやゲーム、塾だけが原因ではありません。社会全体として、子どもたちは子ども同士で遊んだり大人とかかわったりすることがしにくい環境に置かれています。子どもたちは自分にとって都合の良い人間関係を築がちになり、その居心地の良い世界で生きていくことに慣れてしまっています。昔はあまり見られなかった「不登校」や「いじめ」などが大きな問題となっていることも社会環境の変化とは無縁ではないはずです。

こんな状態で社会に出て、たくましく生きていけるのでしょうか。いつか必ず人とかかわらなければならないときが来ます。

かつて地域や家庭が意識せずとも、厳然と担っていた「教育力」や「人間関係力」を育てる環境を取り戻さなければいけません。今こそ家庭、地域と一緒に、子どもたちが大半の時間を過ごす学校において「人と人のかかわり方」を教え育てていかなければいけない時代になってきたと言えます。



平成25年度全国学力・学習状況調査の結果

小中一貫教育での取り組み

昔はあった、上の子が下の子の面倒を見るという機会、上の子と下の子をつなげる機会を、学校での教育活動を通して実現しています。

小学生は中学生の優しさに触れ、きっと自分も中学生になったら優しく教えてあげたいという気持ちを持ったことではないでしょうか。

一方、中学生は常に小学生のことを気にかけて見守っている姿が印象的でした。



刃物・ものづくり教育の一環として
はし作りに挑戦

第三中学校区では、中学1年生と学区の小学4年生と一緒に小刀ではしを作りました。

- ◎ペアの子がすごく危なっかしかったけど、「これはこうするんだよ」と教えてあげたら、その通りにやってくれてよかったです。
- ◎最初はお互い緊張してあまりしゃべれなかったけど、最後は二人で協力してできました。
- ◎自分もできるか分からないのに、小さい子に教えなければいけなくて困ったけど、4年生もちゃんと話を聞いてくれたのでできました。
- ◎けっこう力が必要で疲れました。小学生のことも見ながら、大変そうな所はやってあげることができました。



中学生の感想

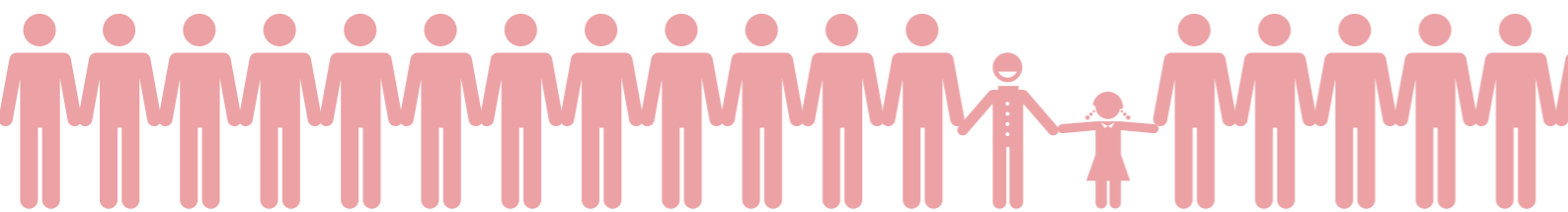
- ◎中学生と一緒にはしを作るのは助け合いの交流だと感じました。
- ◎すごく大変だったけど、楽しかったし、ペアの人がやさしかったです。
- ◎とてもおもしろかったし、ペアの人がとてもやさしくて、またやりたいです。
- ◎とても楽しく、中1の人たちもやさしく接してくれました。



小学生の感想



昔は当たり前のようにあった「上の子と下の子がかかわる環境」。
 今は学校でその環境を提供し、子どもたちに経験させることが求められる時代です。
 これからも家庭、地域と一体となって子どもたちにいろいろなことを経験させたり、
 周りの人と関わる機会をつくりだし、小中一貫教育を通じて
 子どもたちの「生きる力」を育てていきます。



人とかがわる 経験が 生んだもの

小中一貫教育の実施当初(平成21年度)と現在とでは、「自分には、よいところがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」と答えている小中学生の割合が増えています。その割合は中学生に顕著です。

これはさまざまな小中交流の活動や取り組みを通して、「人の役に立っている」という経験を重ねてきた成果と考えられます。特に中学生には「自分は頼られている」という経験が結果に大きく影響していると考えられます。下の子の面倒を見る機会が少なくなった今、学校でこのような経験をさせることが重要となります。



自分には、よいところがあると
思いますか

	平成21年度	平成25年度
小学6年	72.6%	74.7%(2.1UP)
中学3年	66.3%	71.2%(4.9UP)



人の気持ちの分かる人間に
なりたいたと思いますか

	平成21年度	平成25年度
小学6年	93.1%	94.2%(1.1UP)
中学3年	92.7%	95.8%(3.1UP)



人の役に立つ人間になりたいと
思いますか

	平成21年度	平成25年度
小学6年	93.8%	94.6%(0.8UP)
中学3年	90.5%	94.9%(4.4UP)

平成25年度 全国学力・学習状況調査の三条市の結果 ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」数の%

他者に配慮する力

小学4年	52.7	中学1年	54.1
小学5年	53.5	中学2年	53.3
小学6年	52.3	中学3年	53.5

他者とかかわる力

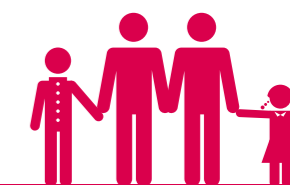
小学4年	53.5	中学1年	54.2
小学5年	54.4	中学2年	53.7
小学6年	52.5	中学3年	53.5

ハイパーQUでは子どもたちの「人とかがわる力」が身に付いているかが分かります。小中学校全学年で全国平均を上回りました。

※ハイパーQUを実施する全国の小中学校の平均を50としたときの数値

平成25年度 ハイパーQUの三条市の結果 ※小学1～3年生までは記述分析でデータ分析はされていません。

小中一貫教育で授業が変わる / 小中一貫教育カリキュラムを活用した乗り入れ授業



小学校から中学校への学習がスムーズに移行できるように、三条市では独自に「小中一貫教育カリキュラム」を作成しています。

「乗り入れ授業」とは、小学校の先生が中学校の授業へ、中学校の先生が小学校の授業へ参加する授業です。小中学校の先生が学習内容の理解や定着を図るため、小中一貫教育カリキュラムを活用して、小学校で習う内容と中学校で習う内容をうまくつなげて、学習面での段差を小さくしています。

小学生
の声

- おもしろい話をしてくれて親しみやすかった。
- 中学校の先生は怖いと思っていたけどやさしかった。

中学生
の声

- 小学校の先生は小6の時の担任の先生なので、自分の苦手を分かっているのわかりやすいアドバイスをしてくれた。
- 小学校の先生にがんばっている姿を見せようがんばった。

